

くまもと有明海

KUMAMOTOARIAKEKAI

あり あけ かい

海域の特徴

有明海の中で、荒尾市から宇土市までの沿岸域を熊本有明海と呼びます。有明海は、潮の干満差が最大約6mと非常に大きく、日本最大の干潟や多種多様な生物が生息しており、多くの河川などからの豊かな栄養分が流れてくるなど、生産力が非常に高い海域です。

漁業の紹介

この海域では、浅い海域や干潟でのアサリ、ハマグリなどを対象とした採貝漁業やのり養殖業、沖合ではクルマエビ、ガザミ、シタビラメ、スズキなどを対象とした流し網漁業や固定式刺し網漁業などが行われています。



6



のり漁場 (ひひ建)



荒尾干潟



みどりかわかこういき
緑川河口域

主な漁業

のり養殖、あさり採貝、流し網、固定式刺し網、いかかご



7

のり養殖

昭和22年のイギリスの女性海藻学者ドゥルーさんによるノリ糸状体の発見と、昭和28年に熊本県水産試験場鏡分場の大田扶桑男さんによる人工採苗技術の開発により、ノリ養殖は、飛躍的に生産量が増してきた。また、昭和50年代に入ると、浮き流し式養殖が取り入れられ、乾海苔製造の機械化が進み、その生産量を増やしてきた。現在、国内のノリ生産は80億枚以上となり、熊本県は、その1割程度を占めている。

漁業の種類名(許可、免許の正式名称)

地方名

漁の時期

名前の由来

漁の方法

主な漁業者住んでいる場所

主な漁場

主な魚の種類

あさり採貝業

熊本県は、有明海に注ぐ菊池川・白川・緑川、八代海に注ぐ球磨川と、4つの一級河川があり、その河口には広大な干潟が広がっている。その干潟では、以前よりアサリ採貝が盛んに行われ、昭和50年代は日本一の生産量を誇った。しかし、現在は生産量・資源量とも低い状態が続いている。

漁業の種類名(許可、免許の正式名称)

地方名

漁の時期

名前の由来

漁の方法

主な漁業者住んでいる場所

主な漁場

主な魚の種類

第1種区画漁業権漁業(のりひび建養殖業、のり浮流し養殖業)

のり支柱養殖 のりベタ養殖

ひび建：9月1日から翌年4月30日（10月下旬から翌年3月中旬）
浮流し：10月20日から翌年4月15日まで（10月下旬から翌年3月中旬）
※（）内はおよその生産時期

養殖象種と、養殖方法の組み合わせ

力キ殻に穿孔したノリ糸状体から胞胞を放出させ、ノリ網に付着させ、種網として使用する（人工種苗の野外採苗）

千潟域にFRP製の支柱を建て、その間にノリ網を水平に設置し（浮動させ）、干出時間を調整）養殖する（ひび建養殖）

沖合にフロートを設置し、その間にノリ網を浮かべ養殖する（浮流し養殖）

海上で養殖されたノリを陸上に水揚げし、全自動ノリ乾燥機などにより乾

海苔製造を行う（乾海苔加工）

主にスビノリ、一部アサクサノリ



えび流し網

この漁法の主な対象となるクルマエビは「熊本県の魚」に指定されており、養殖以外でも、漁船漁業の重要な漁獲対象でもある。特に、本県では、干潟域から、沖の浅い海域にかけての砂・砂泥域はクルマエビの好漁場で、この漁法による漁獲が古くから行われてきた。

漁業の種類名(許可、免許の正式名称)

地方名

漁の時期

名前の由来

漁の方法

主な漁業者住んでいる場所

主な漁場

主な魚の種類

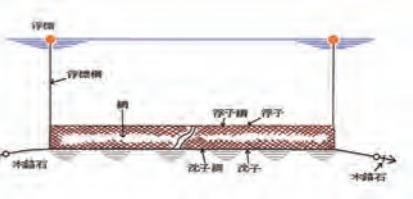
流し網漁業(えび流し網漁業)、げんしき網漁業(げんしき網漁業)

エビ流し、げんしき

周年

主にエビを対象とした流し網

(えび流し網)三重網(刺し網)のおもりを海底に着け、潮に乗せて流し、飛び跳ねたエビを網に刺し漁獲する。
(げんしき網)一重網(非刺し網)のおもりを海底に着け、そのまま上を折り返すように袋状にし、潮の流れで流し、飛び跳ねたエビを網で受け、袋部に誘導し漁獲する。



くちぞこ刺し網

「くちぞこ」と呼ばれるシタピラメ類を対象とした底刺し網。ムニエルの材料として高級魚であるが、地元消費は少なく、その多くは県外に送られている。

漁業の種類名(許可、免許の正式名称)

地方名

漁の時期

名前の由来

漁の方法

主な漁業者住んでいる場所

主な漁場

主な魚の種類

固定式刺し網漁業(くちぞこ刺し網漁業)

くっぞこ刺し

10月1日から翌年7月31日(一部周年)

対象種であるシタピラメ類の姿が靴底の形に似ており「くちぞこ」と呼ぶため。
海底に着ける一重の固定式刺し網で、シタピラメ類を刺し絡め漁獲する。

荒尾市から宇土市沿岸、(上天草市大矢野町、天草市有明町の天草有明海)

熊本有明海～天草有明海

アカシタピラメ、イヌノシタ、コウライアカシタピラメ

いかかご漁業

コウイカ類の産卵の習性を利用し、力ゴを使って漁獲する。

漁業の種類名(許可、免許の正式名称)

地方名

漁の時期

名前の由来

漁の方法

主な漁業者住んでいる場所

主な漁場

主な魚の種類

かご漁業(いかかご漁業)

いかかご、おきかご、へたかご

12月15日から翌年5月31日(一部6月30日)

漁獲対象がイカで、漁具の形が筆筒であること、また、主な漁場が名前の由来と思われる。

返しのついた力ゴを海底に置き、入り口にシバ(竹や木の枝葉)を付け、産卵に来たイカを力ゴ内に誘導し漁獲する。

荒尾市～宇土市沿岸、(上天草市大矢野町、天草市有明町の天草有明海)

熊本有明海(南部海域)～天草有明海(北部海域)

コウイカ、カミナリイカ、シリヤケイカ